# 伝統の知恵と技を現代に生かした玄関土間のあるオープンスタイル

**伝統の木造架構と竹小舞と土壁の真壁構法に、現代の解釈とデザインを取り入れた、力強く美しい、2世帯快適住宅**

## 船戸邸

岐阜県山県市

土間から続く和室は仏間をかねた床の間付きの来客用スペース。大工さんのアイディアで前居の離れで使われていたミズメザクラの柱を仏間の框（かまち）に利用

リビングの吹き抜けに面する2階寝室はロフトを活かした山小屋風。1階の薪ストーブの熱が流れて暖かく、真冬でも布団1枚で充分なほど

船戸さんのご両親、大工の秋山さん、左官の神戸さん、造園の宮崎さん、建具の谷口さん、本庄工業の現場監督の西井さん、中川専務が集まった

朝日が入るダイニングと、60mm厚の桧カウンターで向き合うキッチン。背面のキッチン収納をはじめ、カウンター下、階段下など随所にたっぷりの収納がある

高い吹き抜けに極太の地松梁が交差する開放的なリビング。障子を開ければダイニング、キッチンと一体空間に。床は15mm厚ヒノキ、壁は昔ながらの小舞をかいた土壁に漆喰仕上げ。天井は30mm厚スギ。リビング中央には7寸角の大黒柱。2mの桧の座卓も大空間にぴったりと合う

### 再会の喜びから振り返る「楽しむ家づくり」

3月上旬の週末。船戸邸の吹き抜けのリビングに集まった施工会社の本庄工業の職人さん達と、施主の船戸さんご夫妻。「施工中が懐かしいね」「これはおいしい蕎麦だね」一堂に会するのは昨年初夏の上棟式以来のこと。皆にこやかに当時を振り返りながら、船戸さんが自ら打った蕎麦とともに、再会のひとときを楽しんだ。

船戸邸は旧家屋の建て替えである。施工中、船戸さんご夫妻は敷地内の離れを生活の場としていたので、職人さん達とは毎日顔を合わせていたそうだ。「本庄工業さんは私たちの要望を形にするのが巧かったですね。土間の格子戸に腰壁を付けるアイディアを出したり、柔らかい大谷石を土間に敷くことにチャレンジしてくれたり、職人さんたちみんなが家が良くなる提案をどんどんしてくれて嬉しかった。引渡し（昨年11月）の時は、これで職人さん達ともお別れかと思うと寂しかったですね」と船戸さん。さらに「着工前、本庄工業の方から『家づくりを楽しんでくださいね』と言われてもピンとこなかったんですが、工事が始まってみるとその意味が良くわかりました」とも。その言葉から施主と施工者の固い信頼関係がうかがえた。

本庄工業の中川貴雅さんが言葉を継ぐ。「ウチの家づくりは職人も含めた『チーム本庄』で取り組んでいるんですよ」

家づくりにあたり、展示場に足を運んだり雑誌を切り抜いたりしながら情報を集めていた船戸さんご夫妻。いくつかの候補の中から本庄工業に決めた理由は「伝統の暮らしの知恵を現代に生かした家づくり」だったそうだ。それは地域の木材をたっぷり使った木造住宅であったり、土壁による真壁構法であったり、部屋を壁で仕切らずに建具で開け閉めするフレキシブルな空間設計であったり、さまざまな用途に利用できる玄関土間の採用、等々だったのだが、加えて「自分たちの思いを汲んでくれそうな」真摯な応対に安心感が持てたからだという。

設計担当の中川専務が船戸さんの要望を聞き、それをコンセプトに予算に収まりそうなプランを練り、船戸さんに提案し、さらに修正を加え、といった手順を繰り返した。

「2世帯同居の平屋建てを要望されていましたので、ご夫妻とご両親がそれぞれの生活を大切にしつつ、自然と交流できるよう、廊下で2世帯をつなぐ現在のプランを提案しました。敷地と予算等の都合からご夫妻の寝室